

フロートチャンバー・ガスケット交換ガイド R75/5-R100R

フロートチャンバー・ガスケットはコルクで出来ています。経年で素材が痩せてきて気密性が損なわれます。燃料は毛細管現象で吸い上げられ外部に滲み出ます。スタータージェットはフロートカップに組み込まれているので気密が悪くなると効が悪くなり始動困難の原因にもなります。またフロートカップを固定するワイヤー・クリップはロックが甘くなるためシフト操作時に靴の甲の部分が当たりカップ脱落紛失の恐れもあります。

コルクガスケットはキャブレター本体に嵌りますので車体に装着されている状態では作業が困難です。キャブを外して上下さかさまにすれば作業は簡単ですが同調が狂うなど再調整の必要が出てきます。装着状態で交換するヒントを紹介しします。装着状態を確認するため小型の点検ミラーがあると便利です。手鏡やリアビューミラーでももちろんOKです。



キャブレターは低い位置にあるので作業姿勢はキツイです



キャブ下にスペースがあるので小型でなくても使用できます

引火の危険性があるのでエンジン冷間時に作業します。作業中に少量のガソリンが漏れ出るので火気厳禁、燃料コックをOFFにしてフロートカップを固定しているワイヤー・クリップを外し、カップを真下に外します。この際に燃料ホース内に残ったガソリンが出てくるのでウエスで受けるか、適当な容器で回収します。カップの上にガスケットが付いてくることもあります通常キャブ本体に残るので指先、ドライバーの先のようなもので引掛取り除きます。破片がキャブ本体の溝に残っていないかミラーで確認し、残りがあればドライバー先などで取り除きます。カップの合わせ面にコルク片やバリなどがあればキレイに取り除きます。新しいガスケットをフロートカップの上に載せ、ズレないように注意しながら本体に押し当てます。ガスケットは溝に正しく嵌っていれば落ちてこないでミラーで全周に正しく装着されたことを確認します。クリップでロックする際に固い場合ははみ出ている恐れがあるので再度ミラーで確認します。ガスケットがはみ出た状態で無理やりクリップでロックするとガスケットは破断するので注意します。

液状ガスケットはガソリンに対して機能しないので使用できません。

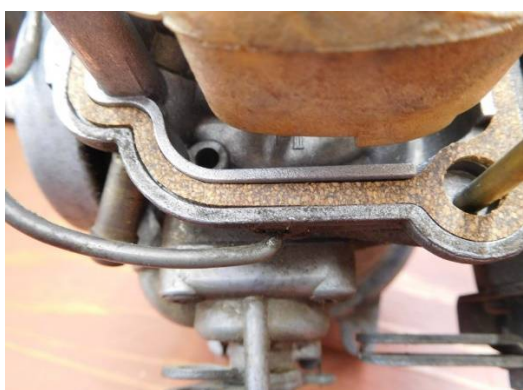
CRIMECA



キャブを下から見た様子 このフロートの色は交換時期です



フロートの上にガスケットを載せてキャブ本体に合わせる



溝に正しく収まっているか確認する 画像は完璧



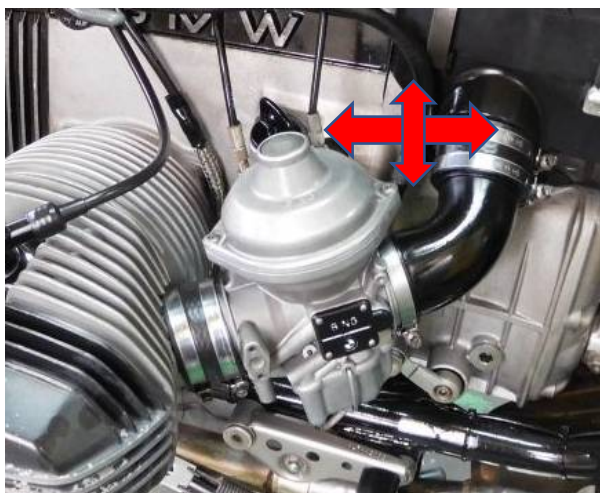
ホースクリップ装着は無理



燃料ホースは切断面から硬化劣化します

隠れた燃料漏れの原因 : 油面調整、部品交換で改善しない場合に下記も点検

- ①燃料ホースの劣化 燃料インレットはキャブ本体のエンジン側にあるため装着状態では目視できません。またスペースの関係でホースクリップが装着できないので燃料ホース自体の柔軟性で密着を維持しています。
- ②オーバーフローパイプの亀裂 真鍮パイプに亀裂が入っていることがあるので詳細にチェックする。



燃料ホースを上下左右に動かしてリークのチェック



パイプに縦すじがあるとリークのリスクあり

CRIMECA